

# 句集

## 第三十五回 月山俳句大会



期 間：令和七年十月一日～令和七年十一月三十日

吟行地：紙上開催

主催／月山俳句大会実行委員会

後援／西川町、西川町教育委員会、山形県俳人協会

# 目次

一頁	：	挨拶
二頁	：	選者紹介
三〜十五頁	：	入選作品
十六〜三十頁	：	投句全作品
三十一〜三十二頁	：	月山の紹介

# 挨拶

この度は、第三十五回月山俳句大会にご応募いただき、誠にありがとうございます。

さて、本大会は山形県西川町の自然や歴史、文化に触れながら、より多くの方からの投句を受けられるように、紙上開催という形で実施しました。また、今回から小中学生の部を新設し、この度は、小学生の部は八十名、八十句、中学生の部は六十八名、六十八句、一般の部は全国各地から四十名、七十八句のご応募をいただきました。

また、ご多用のところ快くお引き受けくださいました選者の先生方に、実行委員一同、心から感謝申し上げます。

西川町は、四季折々の美しい風景に恵まれ、とりわけ月山を中心とした大自然が、多くの人々に感動を与えています。春の新緑、夏の清涼、秋の紅葉、そして冬の静寂…そのいずれもが、俳句を詠むにふさわしい情景を提供してくれます。

皆さまの作品からも、この地の魅力や四季の移ろいを感じることができ、俳句を通じて心を通わせる喜びを改めて実感しました。これからも月山俳句大会が、皆さまにとって創作の場であり、交流の場であり続けることを願っております。

末筆ではございますが、皆々様に、今後とも、月山俳句大会に対するご理解とご協力をお願い申し上げます、挨拶といたします。

令和八年二月吉日

月山俳句大会実行委員会

実行委員長 工藤 稲邨

# 選者紹介

山田 貴世たかよ 「神奈川県藤沢市」

「波」主宰

藤沢市俳句協会会長

現代俳句協会役員推薦理事

鈴木 正子まさこ 「山形県山形市」

山形県俳句協会前会長

「胡桃」主宰

「初蝶」同人

「やましん俳壇」選者

伊藤 寛かん 「山形県天童市」

山形県俳句協会会長

「古志」同人

工藤 稲邨とうそん 「山形県西川町」

山形県俳句協会前常任幹事

西川町せせらぎ俳句会前会長

「波」同人

# 入選作品

## 西川町長賞

### 一般の部

五九 月山の風にまかせて干大根

山形市

鈴木 実

### 小学生の部

六七 ねころぶと落ち葉のじゅうたんふつかふか

6年生

佐藤 采夏

### 中学生の部

六五 炎天下自分の影も溶けてゆく

3年生

松田 青葉

一般の部

山田 貴世 先生選

― 特選 ―

五九 月山の風にまかせて干大根

山形市

鈴木 実

― 秀逸 ―

二六 洗はれて出羽の里の紅葉かな

相模原市

富山 ゆたか

五二 溪谷の風筋見せて散紅葉

東京都世田谷区

山田 せつ子

― 佳作 ―

一三 一家言集ひ名代の走り蕎麦

上山市

石井 浩吉

二三 月山へ続く風みち大花野

山形市

浅野 友美

二九 月山を化粧するかに風花す

藤沢市

山下 遊児

一般の部

鈴木 正子 先生選

― 特選 ―

二五 月山に県境なくて小鳥来る

相模原市

富山 ゆたか

― 秀逸 ―

五二 溪谷の風筋見せて散紅葉

東京都世田谷区 山田 せつ子

六七 月山の古道巡りや撫若葉

山形市 横道 啓一

― 佳作 ―

一〇 糶田にボール飛ばせば犬走る

山形市 大森 アキ

二三 月山へ続く風みち大花野

山形市 浅野 友美

六〇 月山に風の道あり白鳥来

山形市 鈴木 実

一般の部

伊藤 寛 先生選

― 特選 ―

一〇 糶田にボール飛ばせば犬走る

山形市

大森 アキ

― 秀逸 ―

八 北塞ぐ鳥海山は雲隠れ

横浜市

工藤 加代子

五九 月山の風にまかせて干大根

山形市

鈴木 実

― 佳作 ―

六七 月山の古道巡りや撫若葉

山形市

横道 啓一

七四 月山に 雲の湧き立つ 初御空

岐阜市

田中 恭司

七八 凍み餅の下がる窓辺や雪の宿

横浜市

濱田 聡子

一般の部

工藤 稻邨 先生選

— 特選 —

四 紅葉映え女将艶やか志津の宿

山形市

小山 好仁

— 秀逸 —

五九 月山の風にまかせて干大根

山形市

鈴木 実

七一 冬に入る月山の景凜として

河北町

板坂 悦子

— 佳作 —

三〇 秋風にラジオ片手にウオーキング

西川町

秋山 昭子

五二 溪谷の風筋見せて散紅葉

東京都世田谷区

山田 せつ子

六二 出迎へはお国訛りの雪旆籠

山形市

栗原 忠

# 小学生の部

西川町立西川小学校

山田 貴世 先生選

— 特選 —

六七 ねころぶと落ち葉のじゆうたんふつかふか 6年生 佐藤 采夏

— 秀逸 —

六 ゆきだるまあと目をつけてかんせいだ 3年生 佐藤 有

一六 じきゆう走ぜったい勝つよぜったいに 4年生 齊藤 翔

— 佳作 —

一二 初雪はテンションあがる楽しい日 4年生 高橋 優心

三一 落葉ふみカサカサ鳴るよくせになる 4年生 阿部 愛莉

五三 雪だるまみんなでつくる楽しいな 5年生 佐藤 彪牙

# 小学生の部

西川町立西川小学校

鈴木 正子 先生選

― 特選 ―

二五 満月が夜空に一つほほえんだ

4年生 井場 茜里

― 秀逸 ―

一九 文化祭ダンス発表大成功

4年生 工藤 心空

六七 ねころぶと落ち葉のじゅうたんふつかふか

6年生 佐藤 采夏

― 佳作 ―

三 月山に光がともるゆきあかり

3年生 和田 愛彩奈

六 ゆきだるまあと目をつけてかんせいだ

3年生 佐藤 有

八〇 秋の空高く広がる澄んだ青

6年生 酒井 愛

# 小学生の部

西川町立西川小学校

伊藤 寛 先生選

— 特選 —

七四 はるきくんおちばの中からこんには

6年生 高橋 明輝

— 秀逸 —

六四 虫嫌い始めて触った赤トンボ

6年生 古澤 侗人

七三 ぎんなんのかおりできづくきせつかな

6年生 大風 夏希

— 佳作 —

六 ゆきだるまあと目をつけてかんせいだ

3年生 佐藤 有

一二 初雪はテンションあがる楽しい日

4年生 高橋 優心

四四 夏の山月山の雪まだあるよ

5年生 高野 啓心

# 小学生の部

西川町立西川小学校

工藤 稲邨 先生選

― 特選 ―

七三 ぎんなんのかおりできづくきせつかな

6年生 大風 夏希

― 秀逸 ―

一二 初雪はテンションあがる楽しい日

4年生 高橋 優心

二八 カラフルな落葉のジュータンきれいだね

4年生 飯野 心花

― 佳作 ―

四六 きれいだなもみじの道ができている

5年生 佐藤 仁奈

五三 雪だるまみんなのでつくる楽しいな

5年生 佐藤 彪牙

六四 虫嫌い始めて触った赤トンボ

6年生 古澤 侗人

# 中学生の部

西川町立西川中学校

山田 貴世 先生選

## ― 特選 ―

四八 帰り着く母の笑顔と麦茶かな

3年生 飯野 美月

## ― 秀逸 ―

五四 虫の音がおかえりなさいと大合奏

3年生 奥山 実咲

六五 炎天下自分の影も溶けてゆく

3年生 松田 青葉

## ― 佳作 ―

五 ひらひらとすすきが踊る匂の音

1年生 荒木 舞美

二六 灼熱の汗が吹き出る水うまし

2年生 伊藤 愛莉

六三 ただいまと田舎の花野風やさし

3年生 藤原 知世

# 中学生の部

西川町立西川中学校

鈴木 正子 先生選

― 特選 ―

六五 炎天下自分の影も溶けてゆく

3年生 松田 青葉

― 秀逸 ―

六 弓張の森に広がる蟬時雨

1年生 飯野 希空

六二 夕焼けやふるさとの良さなお深く

3年生 高橋 美礼

― 佳作 ―

一〇 秋風と友と歩いた湯殿道

1年生 奥山 結愛良

一七 雪残る山の頂雲の上

1年生 高橋 遥陽

四八 帰り着く母の笑顔と麦茶かな

3年生 飯野 美月

# 中学生の部

西川町立西川中学校

伊藤 寛 先生選

― 特選 ―

六 弓張の森に広がる蟬時雨

1年生 飯野 希空

― 秀逸 ―

一 ブナの葉をきらめかすのは夜露かな

1年生 秋場 糸

四七 朝起きて窓を開けると秋風が

3年生 安藤 まり

― 佳作 ―

二 虫たちが森をはばたくゆうゆうと

1年生 秋場 叶海

四八 帰り着く母の笑顔と麦茶かな

3年生 飯野 美月

四九 日焼けしてすれ違う群れ交差点

3年生 太田 和輝

中学生の部

西川町立西川中学校

工藤 稲邨 先生選

― 特選 ―

六一 秋風と笑い声乗せ駆ける旅

3年生 鈴木 沙奈

― 秀逸 ―

二九 朝起きて耳に広がるセミの音

2年生 奥山 芽吹

五三 夏休み開けると友の黒い顔

3年生 奥山 美桜里

― 佳作 ―

一〇 秋風と友と歩いた湯殿道

1年生 奥山 結愛良

二五 汗をかきすするラーメン皆笑顔

2年生 荒木 ひなた

三九 梅雨どきは心の天気も雨模様

2年生 長堀 愛梨

投句全作品（投句順） 一般の部

- 一 おもむろに紅葉山より遠月山  
山形市 大崎 春雄
- 二 五月雨や雲裾野まで月の山  
山形市 大崎 春雄
- 三 孫の手を握つて見上ぐ大噴水  
山形市 小山 好仁
- 四 紅葉映え女将艶やか志津の宿  
山形市 小山 好仁
- 五 枯蟪蛄天衣広げて果てにけり  
山形市 折原 廣子
- 六 枯菊焚く供養と人の集ひけり  
山形市 折原 廣子
- 七 味噌味の芋煮「うめつけ」里の秋  
横浜市 工藤 加代子
- 八 北塞ぐ鳥海山は雲隠れ  
横浜市 工藤 加代子
- 九 月山に湧く雲流れ雪明り  
山形市 大森 アキ
- 一〇 魯田にボール飛ばせば犬走る  
山形市 大森 アキ
- 一一 月山和紙ぼんぼり照らす夕紅葉  
大石田町 柏倉 ヤス子
- 一二 石仏もうつとりとする紅葉かな  
大石田町 柏倉 ヤス子
- 一三 一家言集ひ名代の走り蕎麦  
上市市 石井 浩吉
- 一四 田仕舞を見届け神は月山へ  
上市市 石井 浩吉
- 一五 横井戸を祀る鳥居や水引草  
山形市 鈴木 周子

- 一六 蔦紅葉絡まりながら色増せり  
山形市 鈴木 周子
- 一七 秋惜しむ形見となりし名古屋帯  
寒河江市 国井 菊子
- 一八 十五夜と並ぶ小さき土星かな  
寒河江市 国井 菊子
- 一九 出羽は喜雨大の字に寝て涙せり  
西川町 奥山 則子
- 二〇 良宵や月の山より秋の風  
西川町 奥山 則子
- 二一 小春日の縁どつてゐる座椅子かな  
上市市 佐藤 権一郎
- 二二 花野原色だけ貰ひ持ち帰る  
上市市 佐藤 権一郎
- 二三 月山へ続く風みち大花野  
山形市 浅野 友美
- 二四 父の忌の尾根明あかと秋澄めり  
山形市 浅野 友美
- 二五 月山に県境なくて小鳥来る  
相模原市 富山 ゆたか
- 二六 洗はれて出羽の里の紅葉かな  
相模原市 富山 ゆたか
- 二七 鯿掴み鳶は一気に飛翔せり  
藤沢市 霧野 萬地郎
- 二八 麻醉銃撃たれし熊を放つ山  
藤沢市 霧野 萬地郎
- 二九 月山を化粧するかに風花す  
藤沢市 山下 遊児
- 七七 田の神を山に還して芋煮会  
藤沢市 山下 遊児
- 三〇 秋風にラジオ片手にウオーキング  
西川町 秋山 昭子

- 三一 秋晴に原色クレーン天高く  
西川町 秋山 昭子
- 三二 熊出ると札は達筆山眠る  
西川町 辻井 智子
- 三三 風白し池塘遍く碧みたり  
西川町 辻井 智子
- 三四 一人食む 夕餉の思案 いわし雲  
西川町 奥山 ミチヨ
- 三五 闇白く雪下人參濃く甘く  
藤沢市 井上 深空
- 三六 大雪の日に生まれたの何度聞く  
藤沢市 井上 深空
- 三七 月満ちてホラ貝響く山修行  
藤沢市 清水 誠
- 三八 名山の水の恵みや酒どころ  
藤沢市 清水 誠
- 三九 大根干す月山よりの風道に  
町田市 高橋 きよ子
- 四〇 月山の光背のごと秋の虹  
町田市 高橋 きよ子
- 四一 冬仕度月山見えぬ麓村  
西川町 清野 幸夫
- 四二 月山の野道遮る赤まんま  
西川町 清野 幸夫
- 四三 月山の新雪隠す雲の影  
西川町 高橋 真喜子
- 四四 端近に寄りて文読む初時雨  
西川町 高橋 真喜子
- 四五 わきいづる火の粉闇へとお柴灯  
西川町 奥山 みよし
- 四六 窓越のもみぢの山と歩きけり  
西川町 奥山 みよし

- 四七 田の神が帰る月山雪催  
西川町 板坂 歩牛
- 四八 悠久の雪被り初む月の山  
西川町 板坂 歩牛
- 四九 月山の相響き合ふ雪解水  
仙台市 赤間 学
- 五〇 月山の道登りけり蟻の列  
仙台市 赤間 学
- 五一 日日母の好きな色へと実むらさき  
東京都世田谷区 山田 せつ子
- 五二 溪谷の風筋見せて散紅葉  
東京都世田谷区 山田 せつ子
- 五三 箸先に響く衣や牡蠣フライ  
名古屋市 越村 和行
- 五四 ねこじやらし目で追う猫に駆ける犬  
名古屋市 越村 和行
- 五五 冬晴に望む月山すきとほる  
山形市 山岸 宙旅
- 五六 押し黙る行き来が三五時雨かな  
山形市 山岸 宙旅
- 五七 秋雨止み澄める大気や鳶の笛  
河北町 逸見 紀美子
- 五八 露天湯に余生のひと日山桜  
河北町 逸見 紀美子
- 五九 月山の風にまかせて干大根  
山形市 鈴木 実
- 六〇 月山に風の道あり白鳥来  
山形市 鈴木 実
- 六一 地区民の絆に灯る雪旅籠  
山形市 栗原 忠
- 六二 出迎へはお国訛りの雪旅籠  
山形市 栗原 忠

- 六三 沼映えて月山二つ紅葉晴 山形市 渡辺 わたる
- 六四 音もなく末広なせる鴨の水尾 山形市 渡辺 わたる
- 六五 月山へまづは遥拝今年米 天童市 五十嵐 恒子
- 六六 しぐるるや傘さしかけし子の背丈 天童市 五十嵐 恒子
- 六七 月山の古道巡りや撫若葉 山形市 横道 啓一
- 六八 雲足の速き月山冬近し 山形市 横道 啓一
- 六九 月山晴宮に案山子の干されあり 河北町 真木 純子
- 七〇 長老の羯鼓弾める秋神楽 河北町 真木 純子
- 七一 冬に入る月山の景凜として 河北町 板坂 悦子
- 七二 夏の宝子等と登りし月の山 河北町 板坂 悦子
- 七三 月山のおむろに祈る 生身魂 岐阜市 田中 恭司
- 七四 月山に 雲の湧き立つ 初御空 岐阜市 田中 恭司
- 七五 こんもりと大根白菜覆う雪 天童市 土屋 勝博
- 七六 月山の秋を映して地蔵沼 横浜市 濱田 聡子
- 七八 凍み餅の下がる窓辺や雪の宿 横浜市 濱田 聡子

投句全作品（投句順） 小学生の部

西川町立西川小学校

- 一 見上げればほしがきれいだ秋の星光る  
3年生 伊藤 碧桜
- 二 たんじょうびいちばんねたのしいよ  
3年生 高野 元暉
- 三 月山に光がともるゆきあかり  
3年生 和田 愛彩奈
- 四 天の川よるにあらわる星のはし  
3年生 齊藤 蒼乃
- 五 月の中うさぎもちつきペツタンコ  
3年生 大泉 真帆
- 六 ゆきだるまあと目をつけてかんせいだ  
3年生 佐藤 有
- 七 赤トンボあかねの空をふわふわと  
3年生 志田 浩希
- 八 ねこがねるこたつにこもりみかんむく  
3年生 郷野 夏生
- 九 外見れば赤茶きいろのおちばたち  
3年生 伊藤 莉緒
- 一〇 夜空みて秋の三日月きれいだな  
4年生 横山 真紗斗
- 一一 キレイだな色とりどりなぶなの森  
4年生 長岡 朋花
- 一二 初雪はテンションあがる楽しい日  
4年生 高橋 優心
- 一三 暑い日に魚つりする子どもたち  
4年生 七條 竜乙
- 一四 なにしようかなスキーをしよう楽しみだ  
4年生 設楽 莉愛
- 一五 木から落ちるいろんな種類のドングリだ  
4年生 佐藤 治磨
- 一六 じきゆう走ぜったい勝つよぜったいに  
4年生 齊藤 翔

- 一七 家の内どこにもカメモムシくさすぎる  
4年生 西塔 光成
- 一八 山の色オレンジ黄色鮮やかだ  
4年生 後藤 優稀
- 一九 文化祭ダンス発表大成功  
4年生 工藤 心空
- 二〇 秋の暮れ窓の外見るは星一つ  
4年生 菅野 まひる
- 二一 いいにおいたどつて見ると焼きさんま  
4年生 金子 智咲
- 二二 朝一にむじやきにおどる白い息  
4年生 掛田 和夏
- 二三 あたたかいホタテおいしい幸せだ  
4年生 奥山 沙和
- 二四 ハゼノキはオレンジ色で長い葉だ  
4年生 エリクソン レオ
- 二五 満月が夜空に一つほほえんだ  
4年生 井場 茜里
- 二六 十五夜のうさぎがもちつきうつくしい  
4年生 井場 葵
- 二七 月の山立冬になり白くなる  
4年生 伊藤 大翔
- 二八 カラフルな落葉のジュータンきれいだね  
4年生 飯野 心花
- 二九 紅葉で山が色づく月山道  
4年生 新宮 翔真
- 三〇 イチヨウの葉黄金にそまるさん歩道  
4年生 荒木 昊
- 三一 落葉ふみカサカサ鳴るよくせになる  
4年生 阿部 愛莉
- 三二 早く来い大好きな冬もうすぐだ  
4年生 秋場 聖海
- 三三 夏おしむ秋近しだな夏の朝  
5年生 宋 耶恩

- 三四 山の雨雲が流れて行く秋  
5年生 設楽 朔弥
- 三五 桜舞い見上げた空は花の雨  
5年生 高橋 心愛
- 三六 秋の道落ち葉をふむとパリツとする  
5年生 阿部 優莉花
- 三七 カブトムシかつこよくあるいてる  
5年生 阿部 遼馬
- 三八 夏の日に田植えをしようどろだらけ  
5年生 西谷 惟
- 三九 へくさ虫秋も元気な虫だよ  
5年生 日塔 愛珠
- 四〇 秋の夜すずむしの音がひびいてる  
5年生 吉田 ひな
- 四一 月山はもう雪あるねはやいけど  
5年生 郷野 叶和
- 四二 山の雪とてもつめたい月山だ  
5年生 飯野 琉星
- 四三 秋になる虫がふえるよへくさむし  
5年生 山崎 桜都
- 四四 夏の山月山の雪まだあるよ  
5年生 高野 啓心
- 四五 かき氷頭がキンキン注意だよ  
5年生 落合 泰陽
- 四六 きれいだなもみじの道ができている  
5年生 佐藤 仁奈
- 四七 ぶなの森みんなで行くよレッツゴー  
5年生 郷野 友愛
- 四八 ぶなの森みんなで歩く夏散歩  
5年生 前田 圭
- 四九 雲の峰さわさわゆれる金の米  
5年生 柴田 結菜
- 五〇 秋の空見上げてみれば赤い空  
5年生 荒木 優花

- 五一 暑い日に月山見あげ残る雪  
5年生 大泉 真奈
- 五二 夏の時家族といった夏スキー  
5年生 荒木 桜雅
- 五三 雪だるまみんなで作る楽しいな  
5年生 佐藤 彪牙
- 五四 暑い日に食べるとキンキンかき氷  
5年生 井場 悠都
- 五五 あたたかいせみのなきごえなつかしい  
5年生 奥山 佳汰
- 五六 ぶなの森みんなで見よう夏の空  
5年生 悪七 竜弥
- 五七 秋の夜虫たちがなくすずしげに  
5年生 岡田 みつき
- 五八 こう葉はいつになるかないちようの木  
5年生 松田 深鈴
- 五九 紅葉だもみじがひらひらまいおちる  
5年生 山木 この実
- 六〇 夏の空そらを見あげるひかる空  
5年生 土田 竜聖
- 六一 キンモクセイ甘い香りが人さそう  
6年生 渡辺 徠煌
- 六二 空見ればきれいに光る黄金の葉  
6年生 松田 あかり
- 六三 寒露にはこたつでみかんおいしいな  
6年生 眞壁 真央
- 六四 虫嫌い始めて触った赤トンボ  
6年生 古澤 侗人
- 六五 美しく彩る落ち葉まつている  
6年生 設楽 乃愛
- 六六 秋のときさむい空気にしろいき  
6年生 佐藤 佑心
- 六七 ねころぶと落ち葉のじゅうたんふつかふか  
6年生 佐藤 采夏

- 六八 霜降に初雪積もる月山へ  
6年生 工藤 咲空
- 六九 ぼくたちの安心のじきそれは秋  
6年生 奥山 楓門
- 七〇 初茸の香りを味わう飼猫と  
6年生 岡田 あさひ
- 七一 ぜっけいだまちがいろどるにしかわまち  
6年生 奥山 芽依
- 七二 さつまいもこころほかほかあたたまる  
6年生 石川 優
- 七三 ぎんなんのかおりできづくきせつかな  
6年生 大風 夏希
- 七四 はるきくんおちばの中からこんには  
6年生 高橋 明輝
- 七五 いつからか感じ始めたこのはかぜ  
6年生 井場 早彩
- 七六 外見れば紅い葉おちる景色かな  
6年生 伊藤 光佑
- 七七 庭みれば赤く染まった彼岸花  
6年生 荒木 美奈
- 七八 秋刀魚にはうま味と食欲詰まってる  
6年生 阿部 奏人
- 七九 秋の雪月の山へと降りつもる  
6年生 菅野 菜々子
- 八〇 秋の空高く広がる澄んだ青  
6年生 酒井 愛

投句全作品（投句順） 中学生の部

西川町立西川中学校

- 一 ブナの葉をきらめかすのは夜露かな  
1年生 秋場 糸
- 二 虫たちが森をはばたくゆうゆうと  
1年生 秋場 叶海
- 三 一面の落ち葉に混じるきのこのかさ  
1年生 秋場 悠晴
- 四 帰り道暑さ残りし虫の声  
1年生 阿部 龍星
- 五 ひらひらとすすきが踊る旬の音  
1年生 荒木 舞美
- 六 弓張の森に広がる蟬時雨  
1年生 飯野 希空
- 七 月山に仲間登るも雲隠れ  
1年生 伊藤 有汰朗
- 八 かまきりと我が道を行くゆかいだね  
1年生 上野 楓夏
- 九 歩くんだ晴れている空秋の道  
1年生 奥山 彩羽
- 一〇 秋風と友と歩いた湯殿道  
1年生 奥山 結愛良
- 一一 月山や雲が広がる広い海  
1年生 工藤 勇斗
- 一二 霧晴れて視界の前には青緑  
1年生 後藤 一稀
- 一三 誇ろうよ香る万緑月の山  
1年生 齊藤 真桜
- 一四 錦鯉群れでつくった天の川  
1年生 渋谷 柚季
- 一五 霧晴れてふと振り返ると日本海  
1年生 鈴木 稀葉瑠

- 一六 麗しい森に広がる石畳  
1年生 高野 夏生
- 一七 雪残る山の頂雲の上  
1年生 高橋 遥陽
- 一八 木々茂る弓張平涼しけり  
1年生 日塔 悠仁
- 一九 弓張の中で蟬が鳴いている  
1年生 古澤 晴斗
- 二〇 麗しく天を翔けたるきつつきよ  
1年生 前田 結彩
- 二一 志津巡るきのこがあるぞおいしそう  
1年生 横山 清杜
- 二二 まだ知らぬ志津の歴史と秋模様  
1年生 渡辺 竜煌
- 二三 新米や早く食べたい待ちどおしい  
2年生 阿部 ゆま
- 二四 風鈴やチリンとなびく風吹いて  
2年生 阿部 蘭
- 二五 汗をかきすするラーメン皆笑顔  
2年生 荒木 ひなた
- 二六 灼熱の汗が吹き出る水うまし  
2年生 伊藤 愛莉
- 二七 やぶぬけて筍並ぶ背越えて  
2年生 大泉 朝陽
- 二八 夜に咲く私を照らす夏の花  
2年生 奥山 愛心
- 二九 朝起きて耳に広がるセミの音  
2年生 奥山 芽吹
- 三〇 友達と取れてうれしいかぶと虫  
2年生 工藤 大輝
- 三一 黄金色染めあげられた稲穂たち  
2年生 佐藤 綾音

- 三二 梅雨が明け空から太陽がおを出す  
2年生 佐藤 樹
- 三三 帰り道ひよっこりでてきた夕焼け空  
2年生 設楽 唯夏
- 三四 まだあるよ家についてはいミニトマト  
2年生 柴田 佑月
- 三五 甘すぎるぶどうジュース水一さじ  
2年生 田井 希愛来
- 三六 壁いっぱい目を丸くした千羽鶴  
2年生 高橋 明花梨
- 三七 おさんぽにぼくと並んでカタツムリ  
2年生 土田 海翔
- 三八 みすみすと一匹のセミ残暑かな  
2年生 長岡 珀
- 三九 梅雨どきは心の天気も雨模様  
2年生 長堀 愛梨
- 四〇 家の中わいわい応援甲子園  
2年生 西谷 梁
- 四一 ミンミンと正午こえるセミの声  
2年生 松田 優希
- 四二 家の中一緒にいるかぶとむし  
2年生 吉田 有那
- 四三 助手席で田んぼ見ながらゆったりと  
2年生 酒井 豪峨
- 四四 秋の夜光り輝く夢の国  
3年生 阿部 恋々奈
- 四五 東京の日陰が僕を呼んでいる  
3年生 荒木 久隆
- 四六 暑い夜時を忘れて並ぶ列  
3年生 荒木 琉志
- 四七 朝起きて窓を開けると秋風が  
3年生 安藤 まり

- 四八 帰り着く母の笑顔と麦茶かな  
3年生 飯野 美月
- 四九 日焼けしてすれ違う群れ交差点  
3年生 太田 和輝
- 五〇 快晴のビルの日陰で友と笑む  
3年生 尾形 優斗
- 五一 炎天下汗染みていくアスファルト  
3年生 奥山 拓門
- 五二 バスからの夕焼け染まるふるさとよ  
3年生 奥山 乃愛
- 五三 夏休み開けると友の黒い顔  
3年生 奥山 美桜里
- 五四 虫の音がおかえりなさいと大合奏  
3年生 奥山 実咲
- 五五 楽しくて忘れてしまう炎天下  
3年生 長田 百華
- 五六 まるで夢愉快的な音楽月の下  
3年生 菅野 耀太
- 五七 ふるさとで深呼吸する夏の風  
3年生 黒坂 亮生
- 五八 外歩き汗がだくだく炎天下  
3年生 後藤 大成
- 五九 ビルの山見上げて歩く天高し  
3年生 白田 あお季
- 六〇 夕焼けがオレンジ色の海作る  
3年生 鈴木 琥葉久
- 六一 秋風と笑い声乗せ駆ける旅  
3年生 鈴木 沙奈
- 六二 夕焼けやふるさとの良きなお深く  
3年生 高橋 美礼
- 六三 ただいまと田舎の花野風やさし  
3年生 藤原 知世

六四 家に着き聞こえてくるよセミの声

3年生 古澤 斗羽

六五 炎天下自分の影も溶けてゆく

3年生 松田 青葉

六六 涼し風同じ吹き場所上野駅

3年生 柴田 龍慶

六七 噴水の水をさわって楽しいな

3年生 伊藤 涉悟

六八 初めての満員電車ぎゅうぎゅうと

3年生 松田 彩乃

がっさん

## 月山の紹介

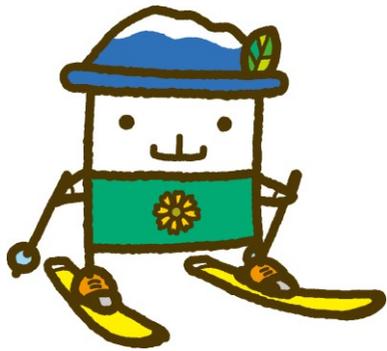
月山は山形県の中央に位置し、標高は千九百八十四メートル。朝日連峰や飯豊連峰とともに磐梯朝日国立公園に指定されています。

日本百名山の一つでもある月山は出羽三山の主峰であり、山岳信仰の山として知られ、山頂の月山神社には「月読命」が祀られており、奥の細道の松尾芭蕉が、月に登山し「雲の峯いくつ崩れて月の山」と歌いました。豊富な残雪を活用し、国内で唯一、夏スキー（四月上旬～七月下旬）を楽しむことが可能です。

また、雪解けとともに咲き誇る高山植物が約三百五十種類以上、秋には鮮やかな紅葉など、四季折々のトレッキングを楽しむことができます。



残雪とブナの新緑の  
トレッキングを楽しむ



夏でも滑走可能  
月山夏スキー

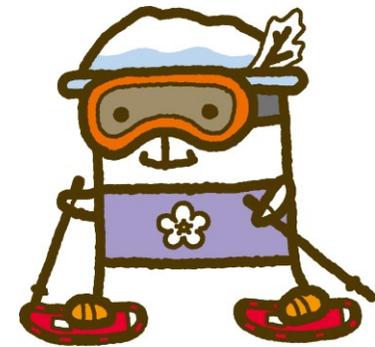


燃えるような  
美しい紅葉

残雪に高山植物  
トレッキングを  
楽しむ



雄大なブナ原生林  
スノーシュー  
トレッキング





『月山志津温泉雪旅籠の灯り』

第三十五回月山俳句大会 句集

編集・発行 月山俳句大会実行委員会

〒九九〇・〇七〇三 山形県西村山郡西川町大字間沢二八〇

(西川交流センターあいべ内)

電話：0237-74-3131 FAX：0237-74-3219

メール：shogai@town.nishikawa.yamagata.jp